

FOOL's ART GALLERY

抜け忍と:



捕らわれ、首領であり

実の姉による地獄の拷問が待ち受ける

淫

なって追われる身となったお静



男達に体中の穴という穴を
犯され続ける・・・



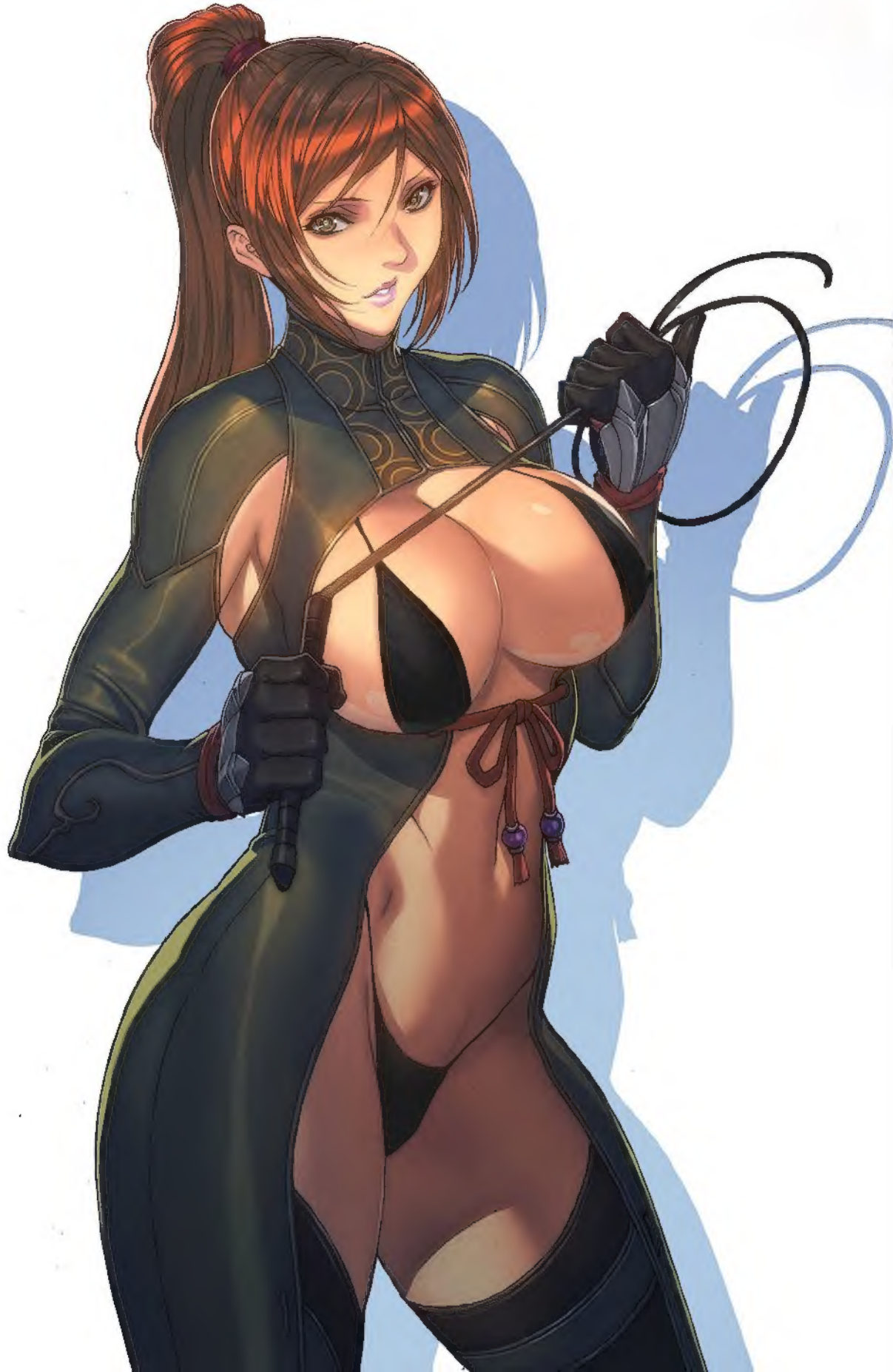
魔忍法帖

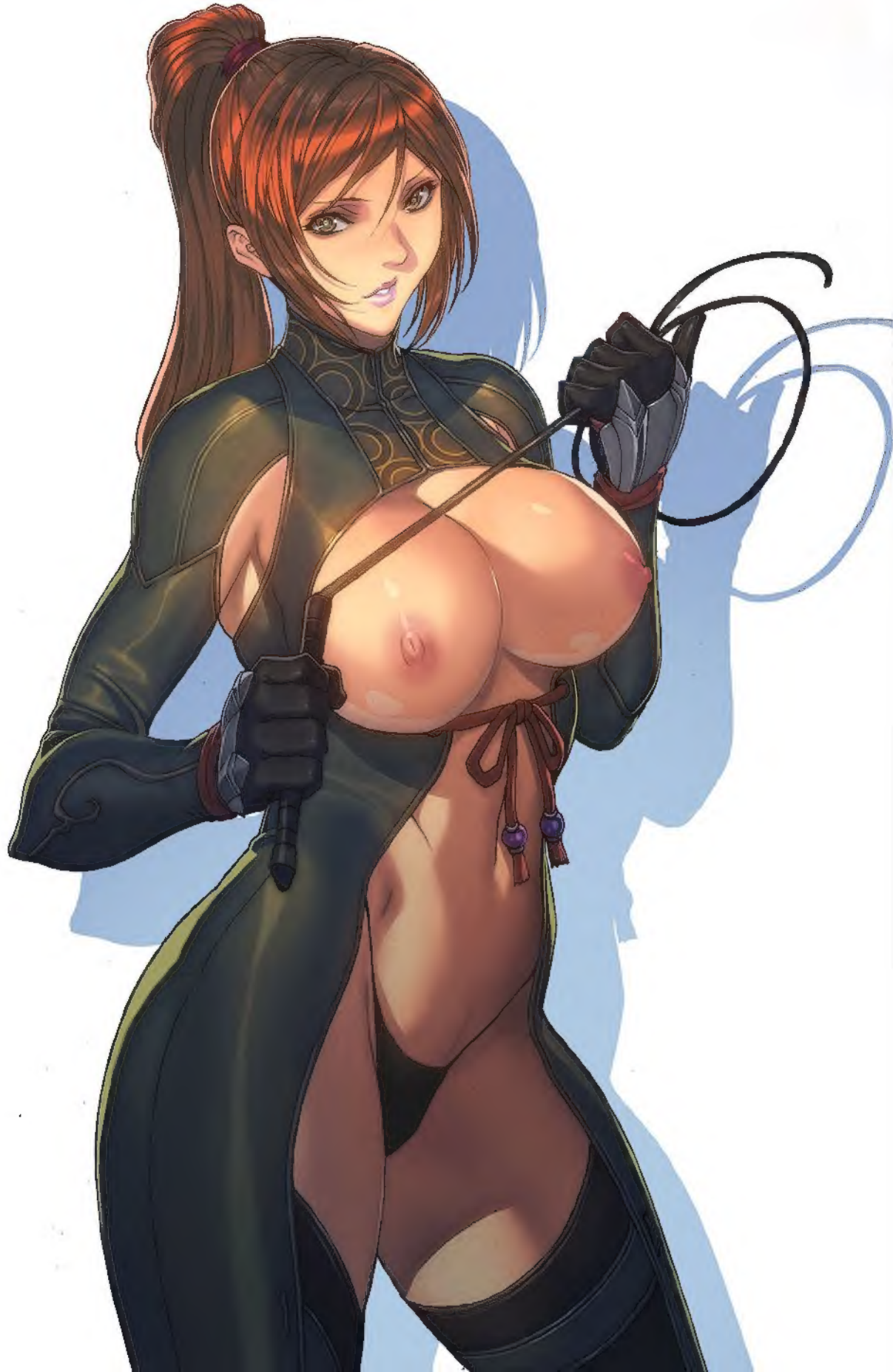
ADULT ONLY







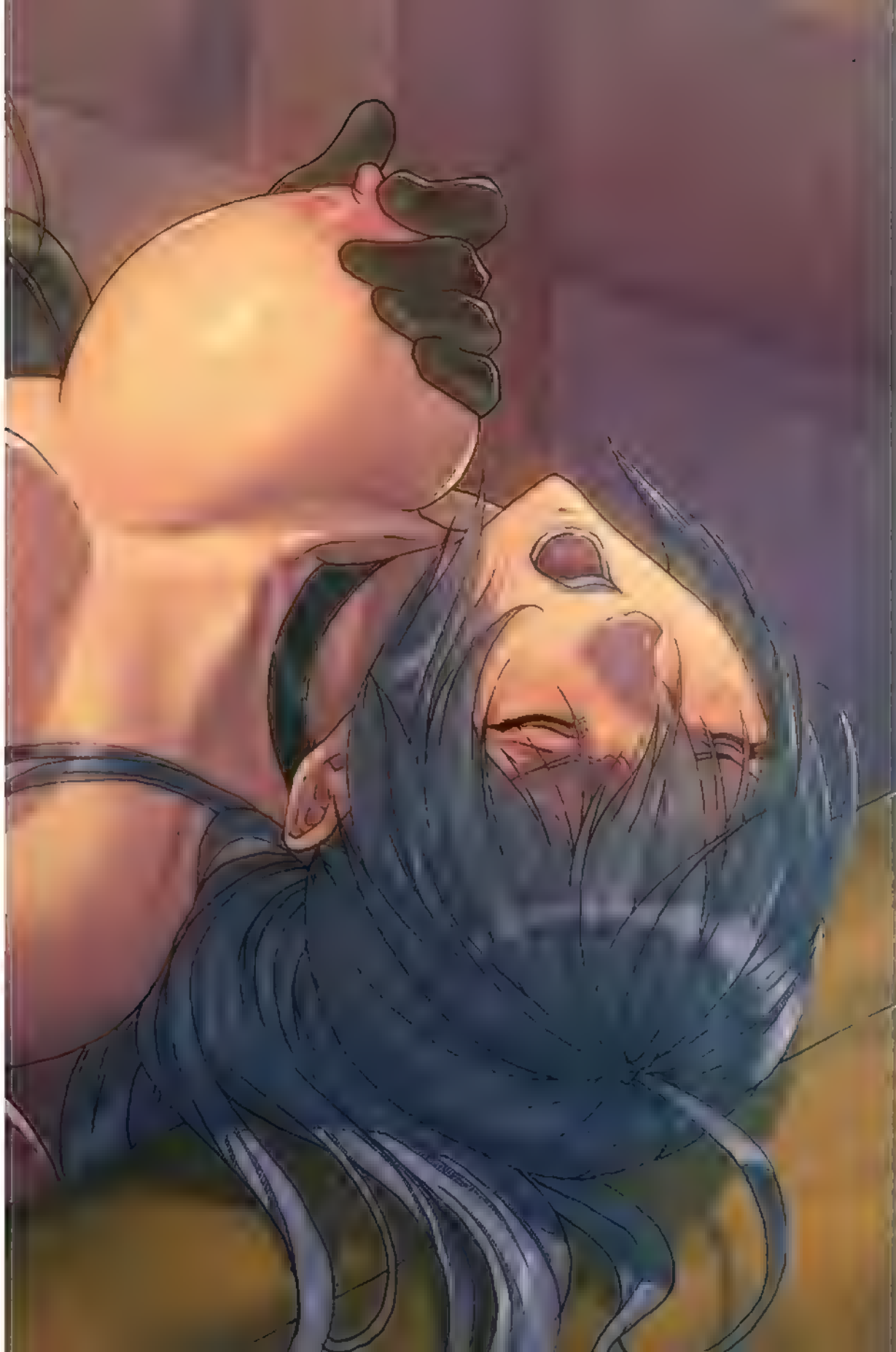








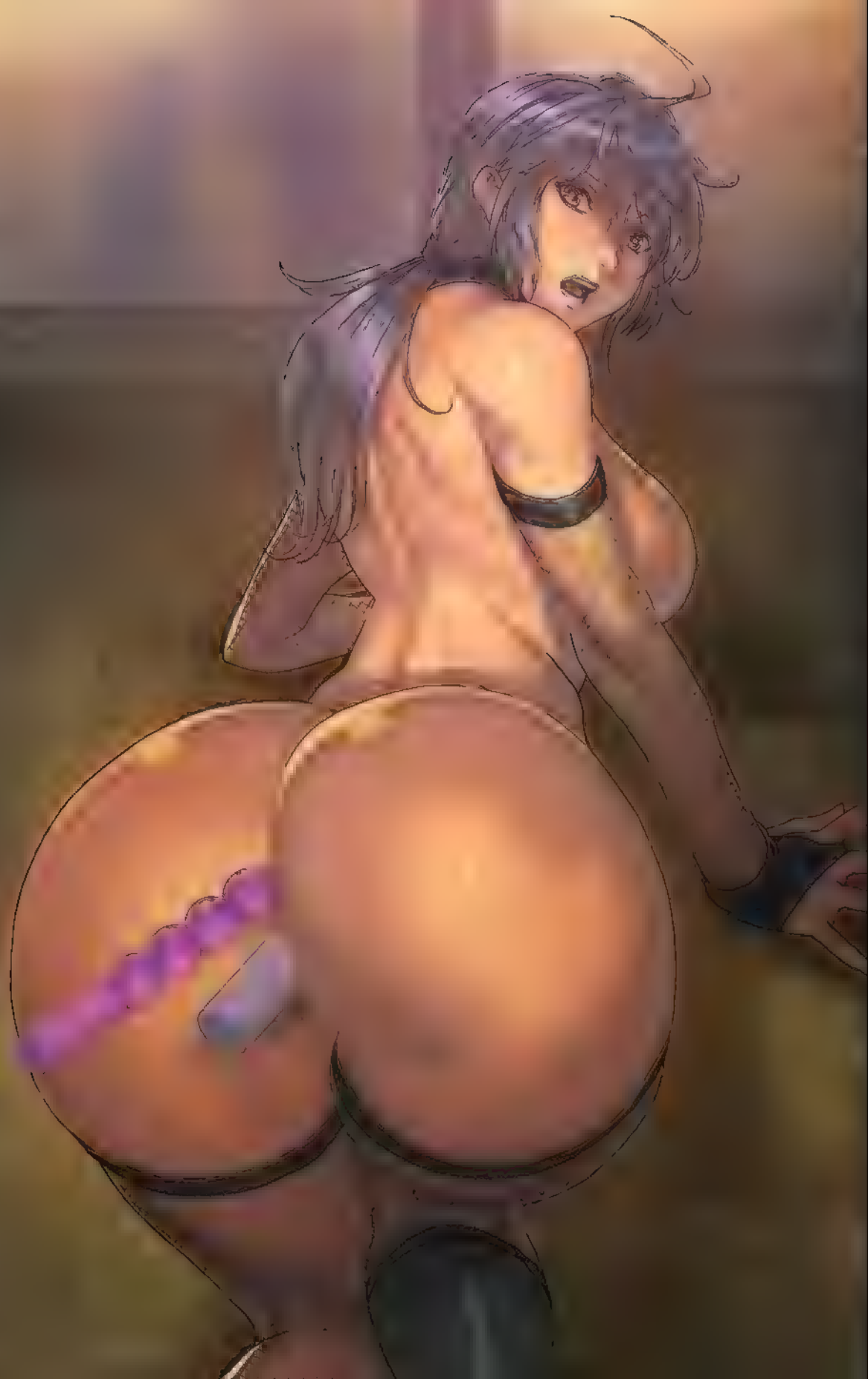




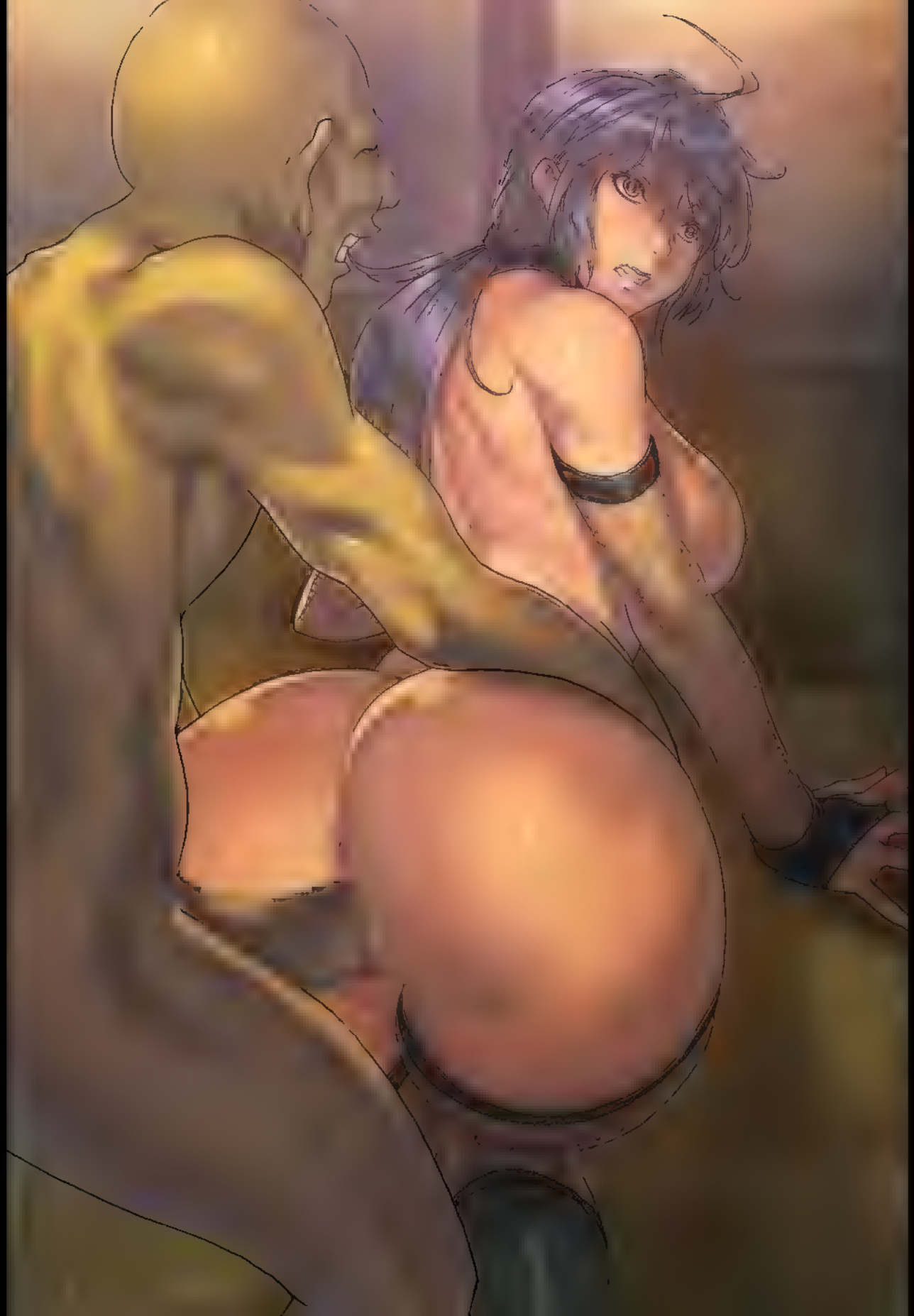










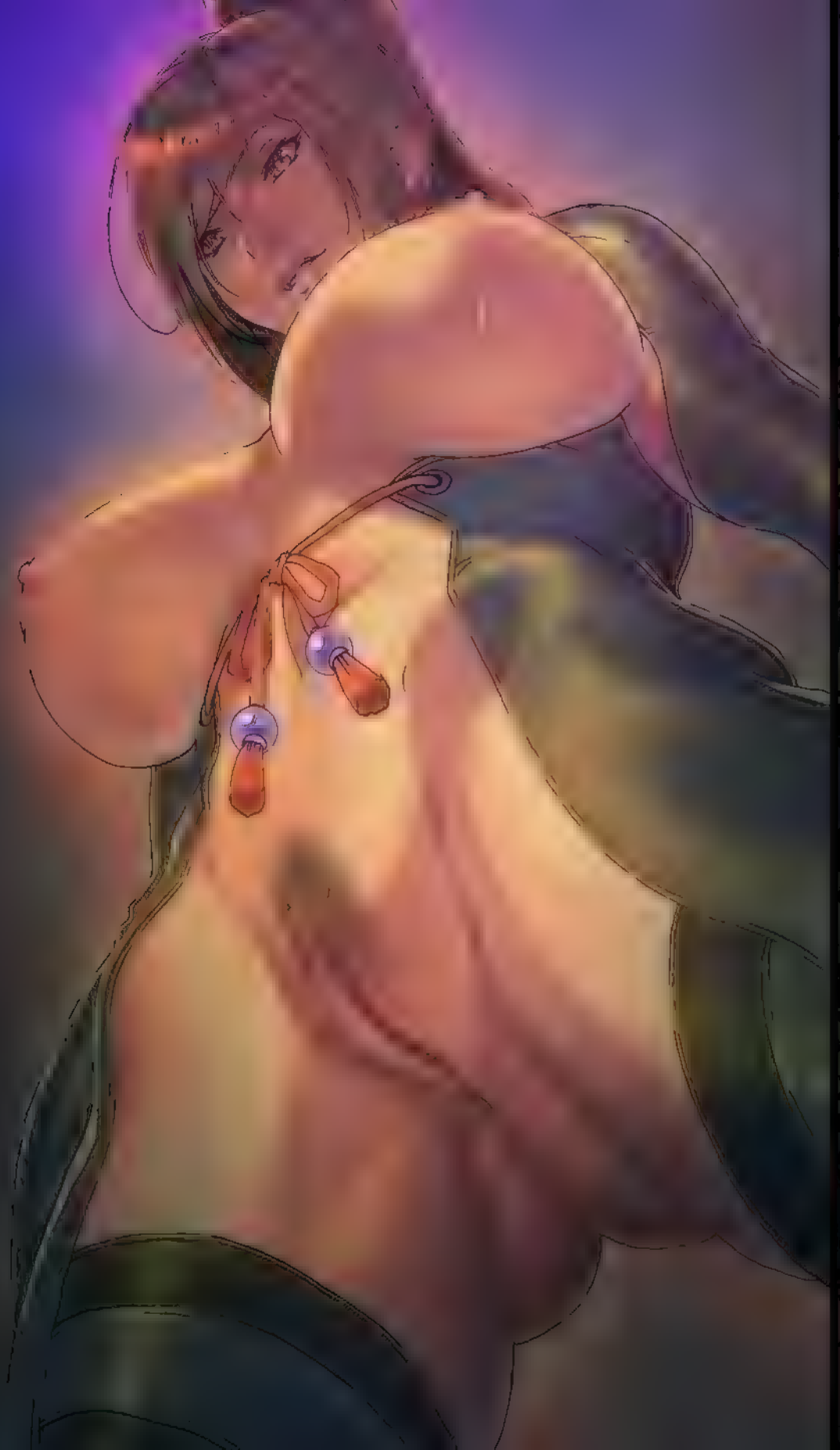




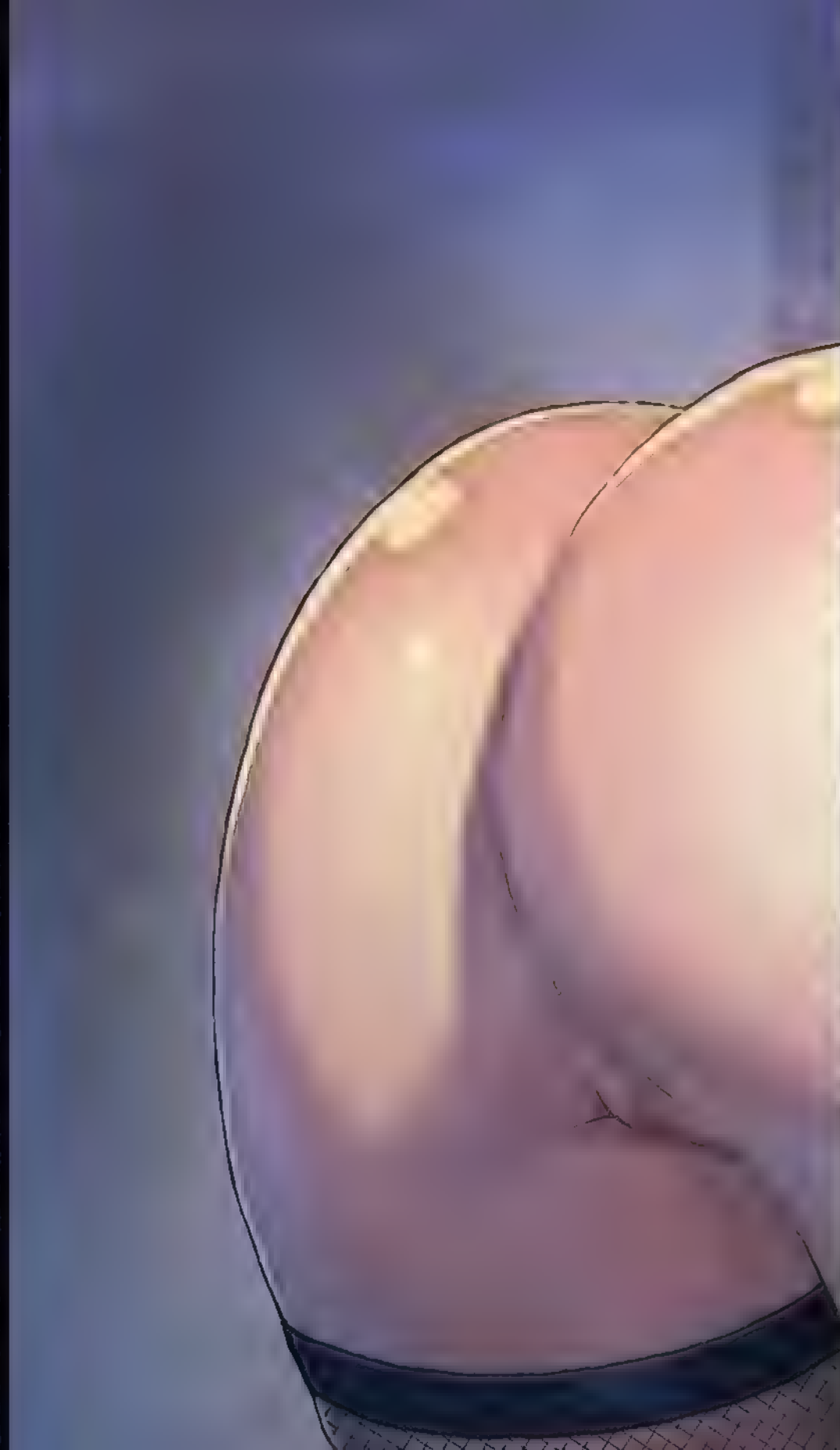




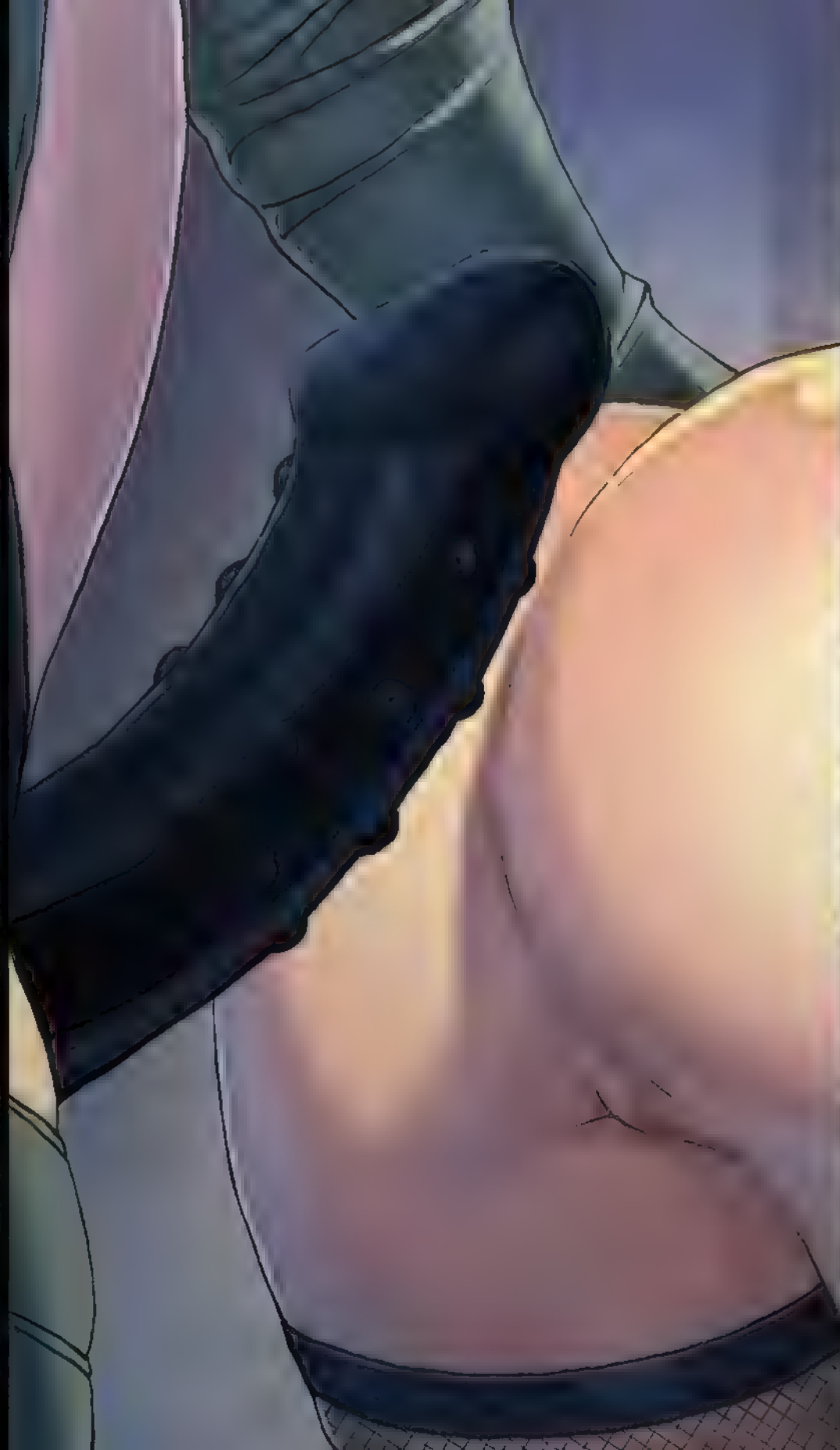


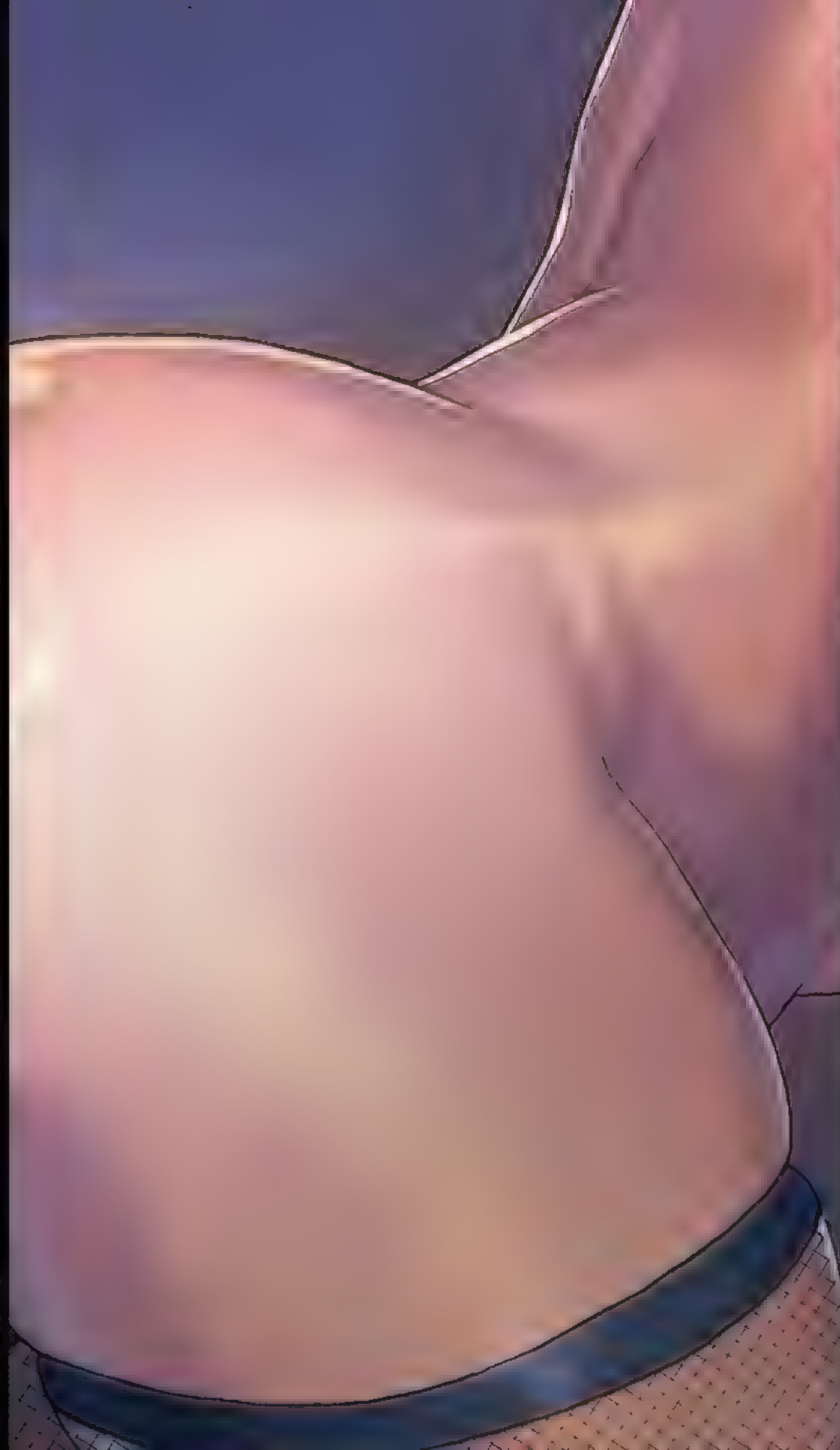


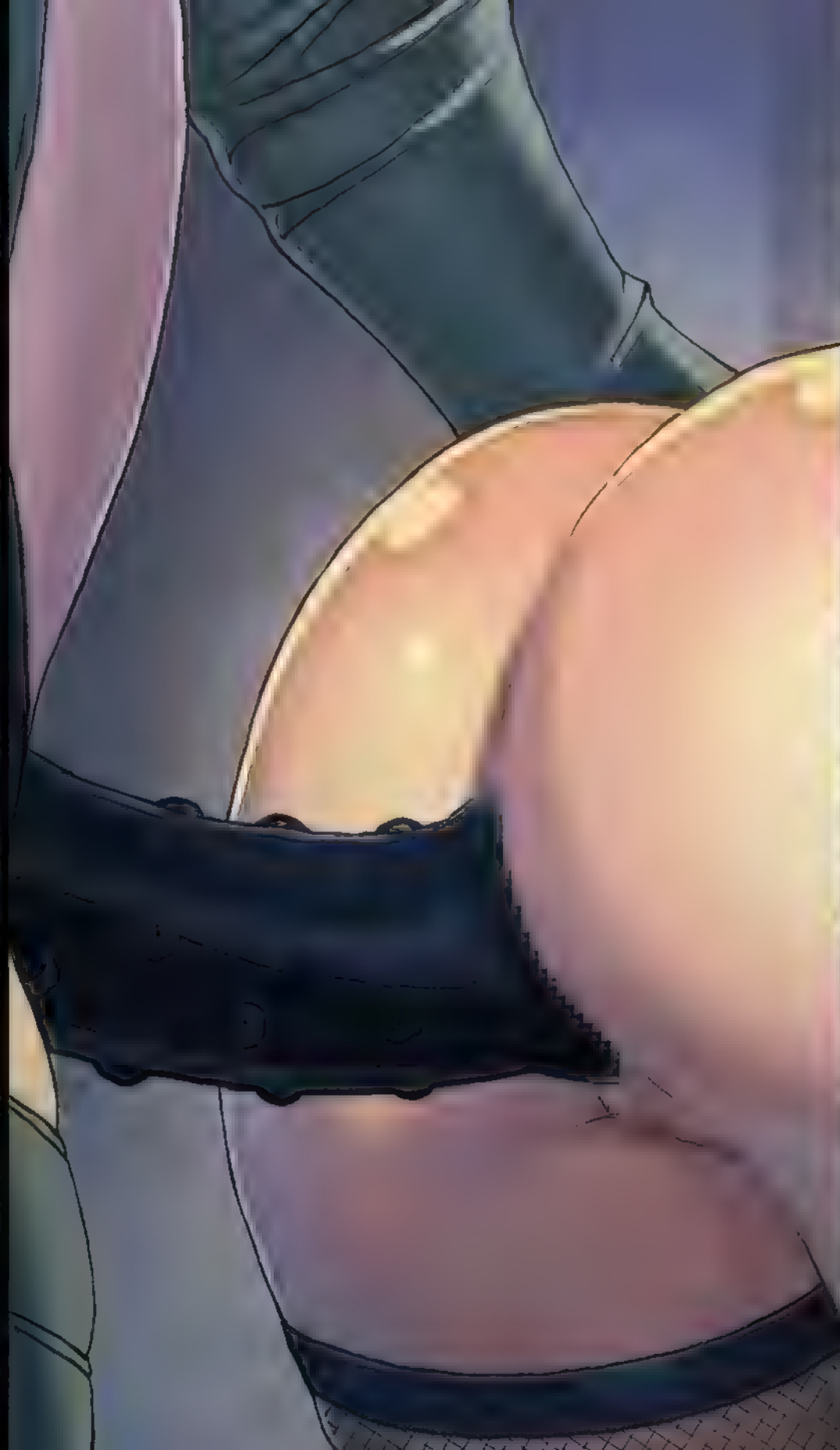




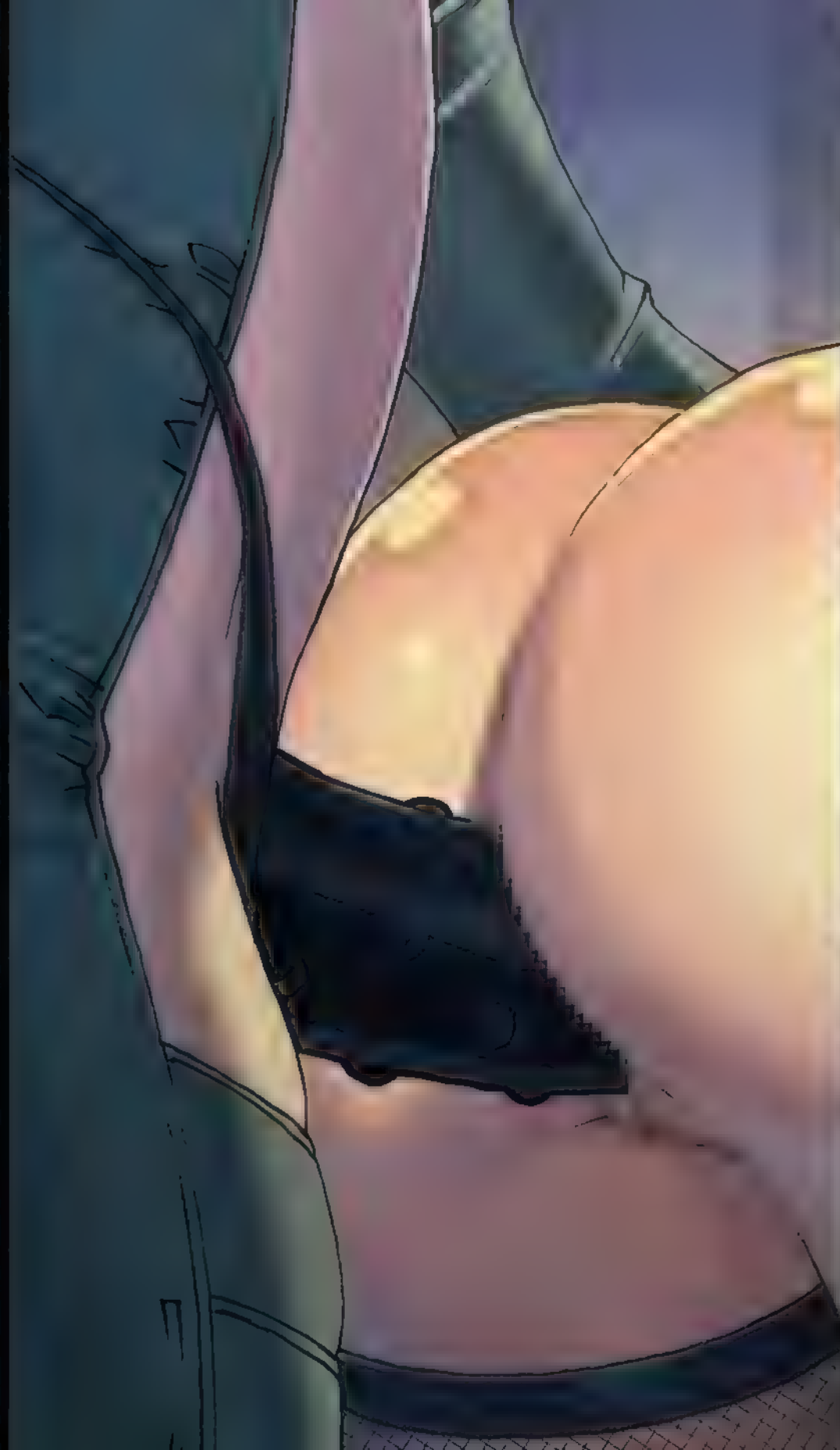














「くはっ」

「ククク、お静とうとう見つけたぞ。この裏切り者めが」

「不覚、ここまでか……」

「我等忍びの掟を忘れたわけではあるまい」

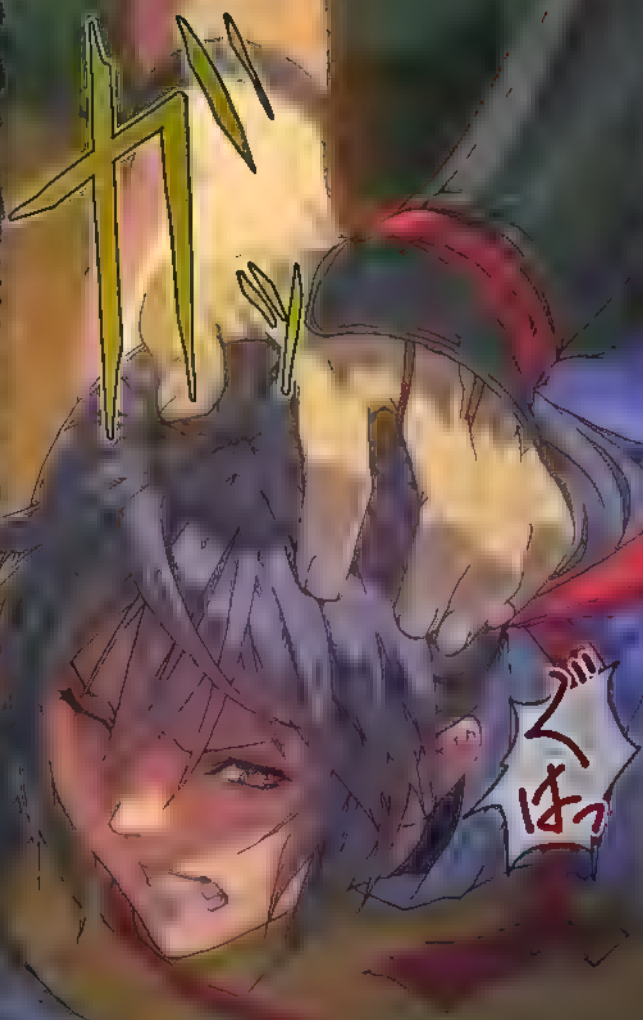
「抜け忍となつて抜け出したお前を捕まえた以上ただではすまさぬぞ」

「く、いさぎよく殺せ！」

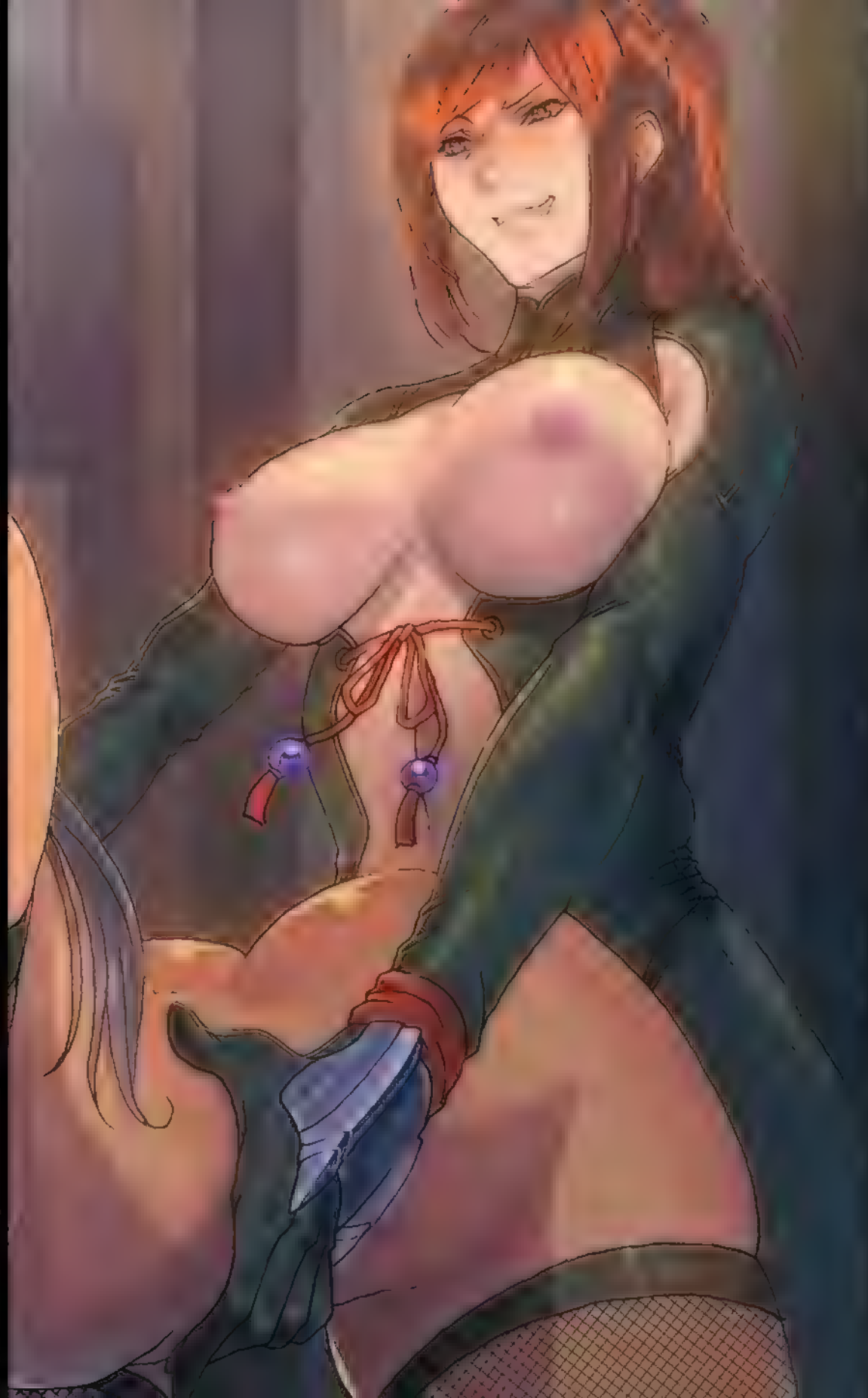
「まあ早まるな。我が首領にて貴様の姉上のムクロ様が生かすようにとのこと」

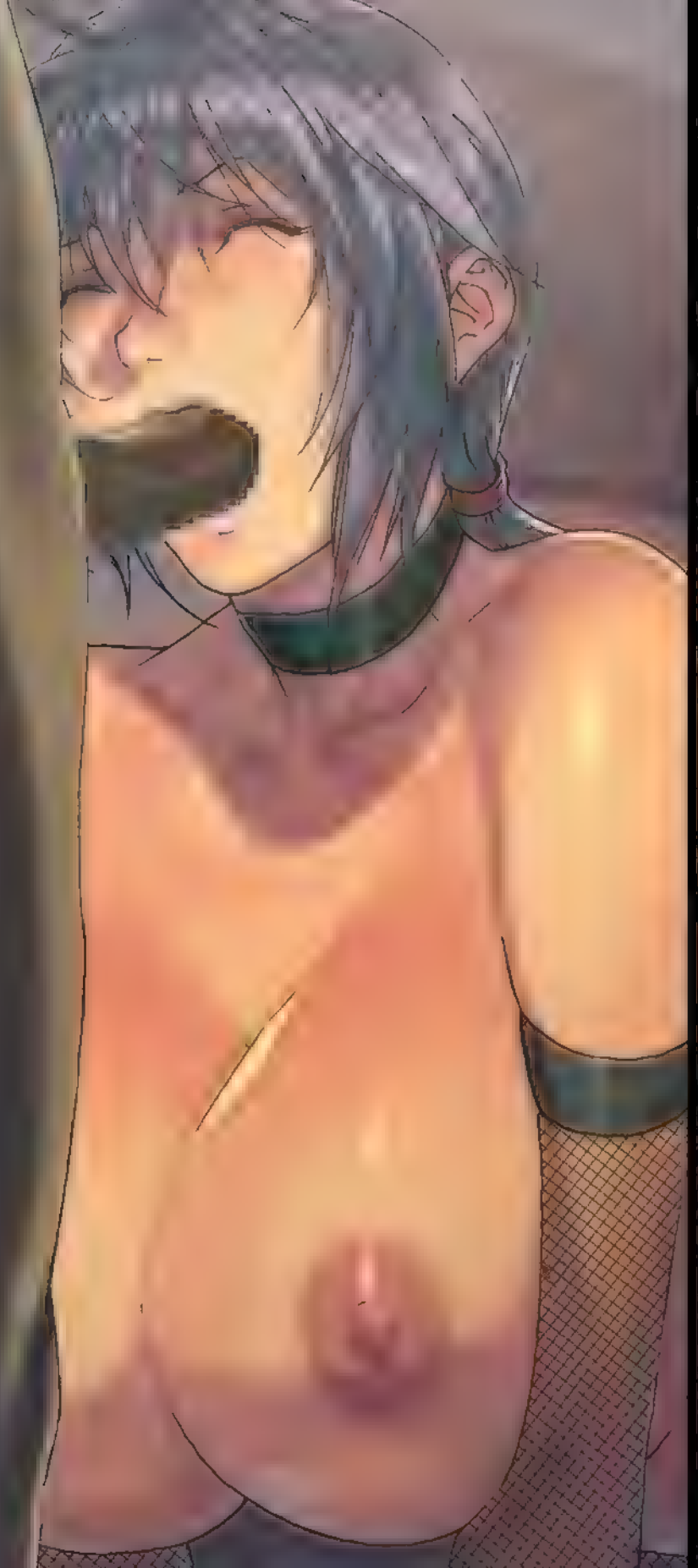
「だが二度とこのようなバカなことを起さぬようムクロ様直々に貴様をかわいがられるみたいだぞ」

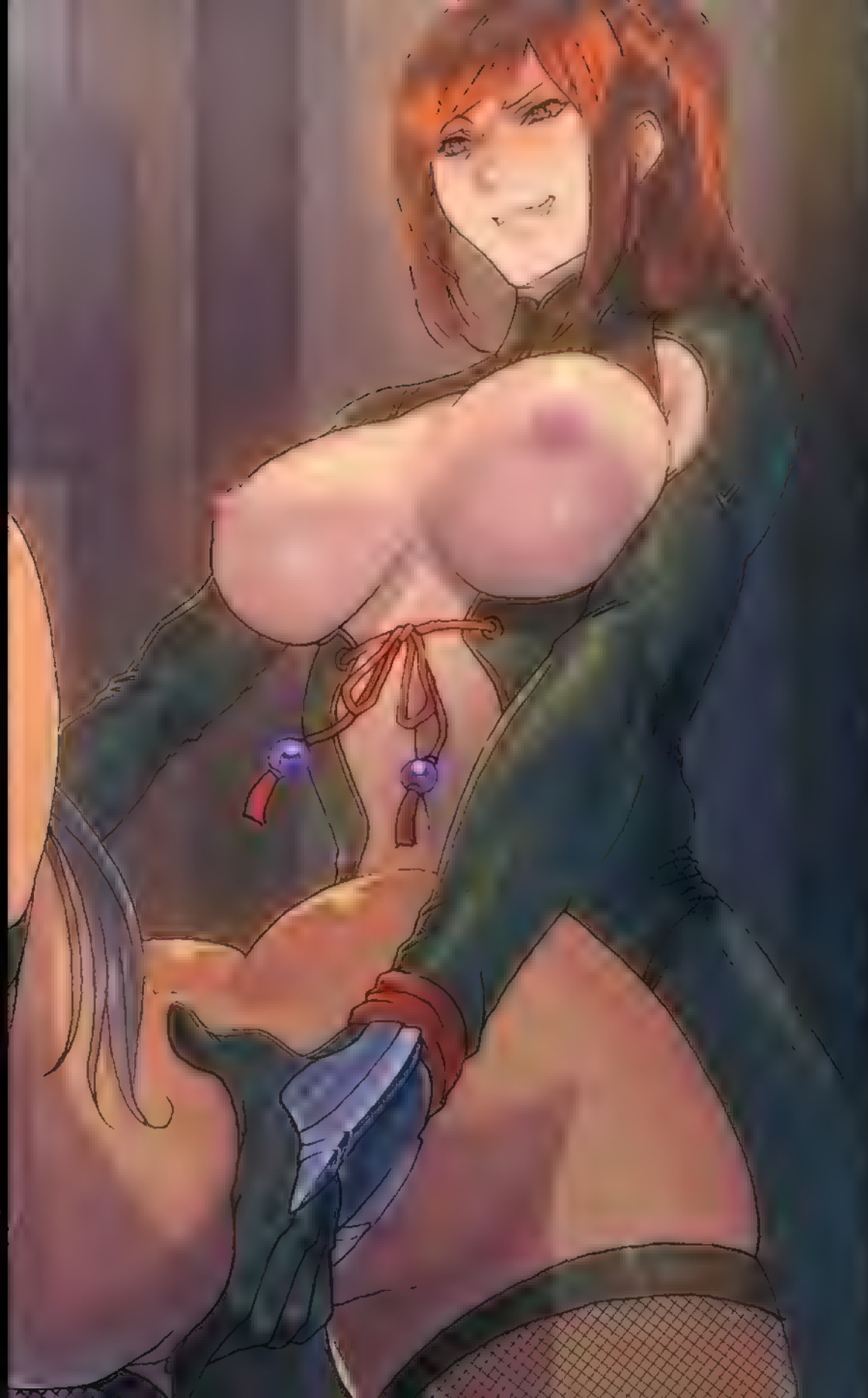
「な、姉様が？」



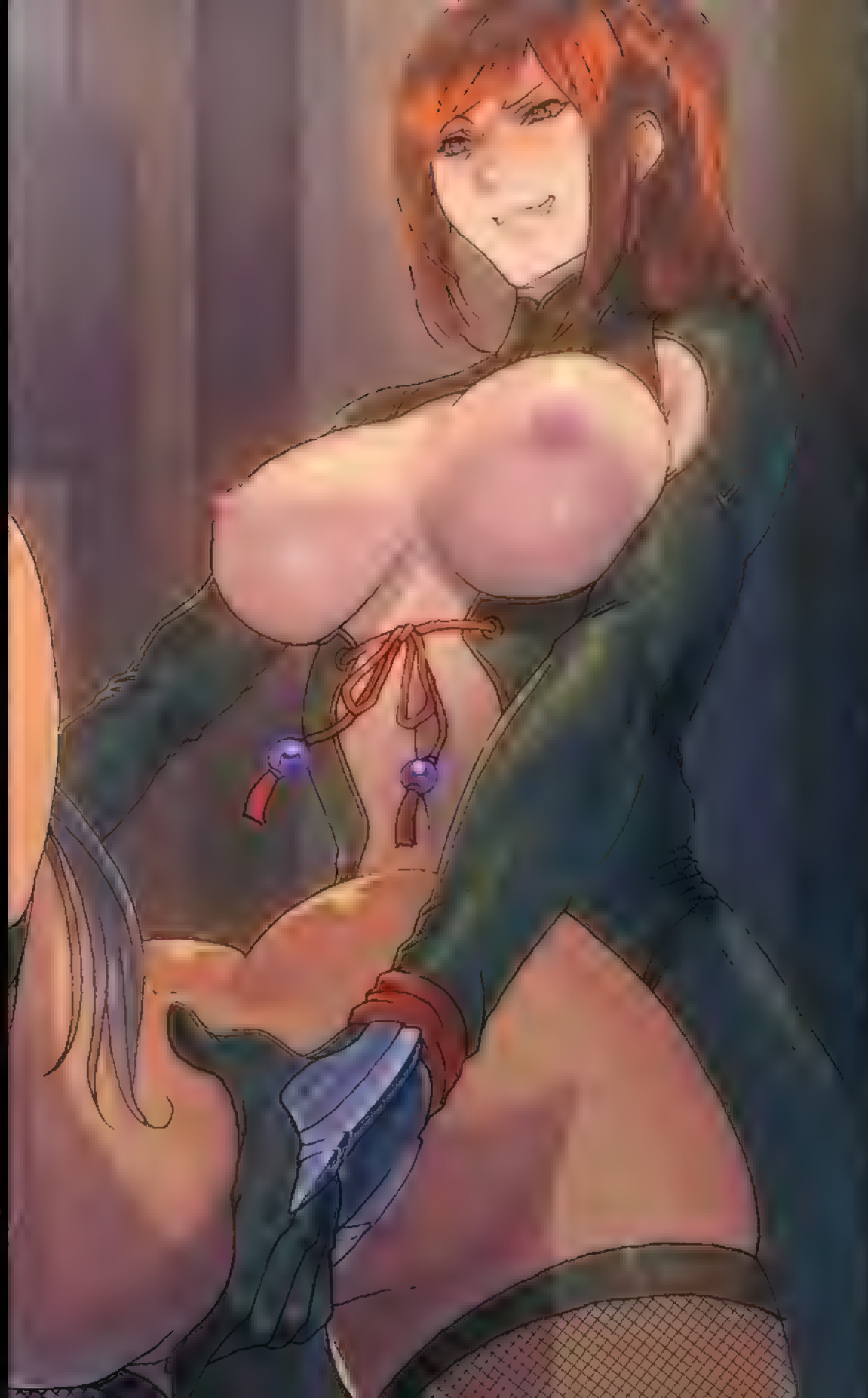


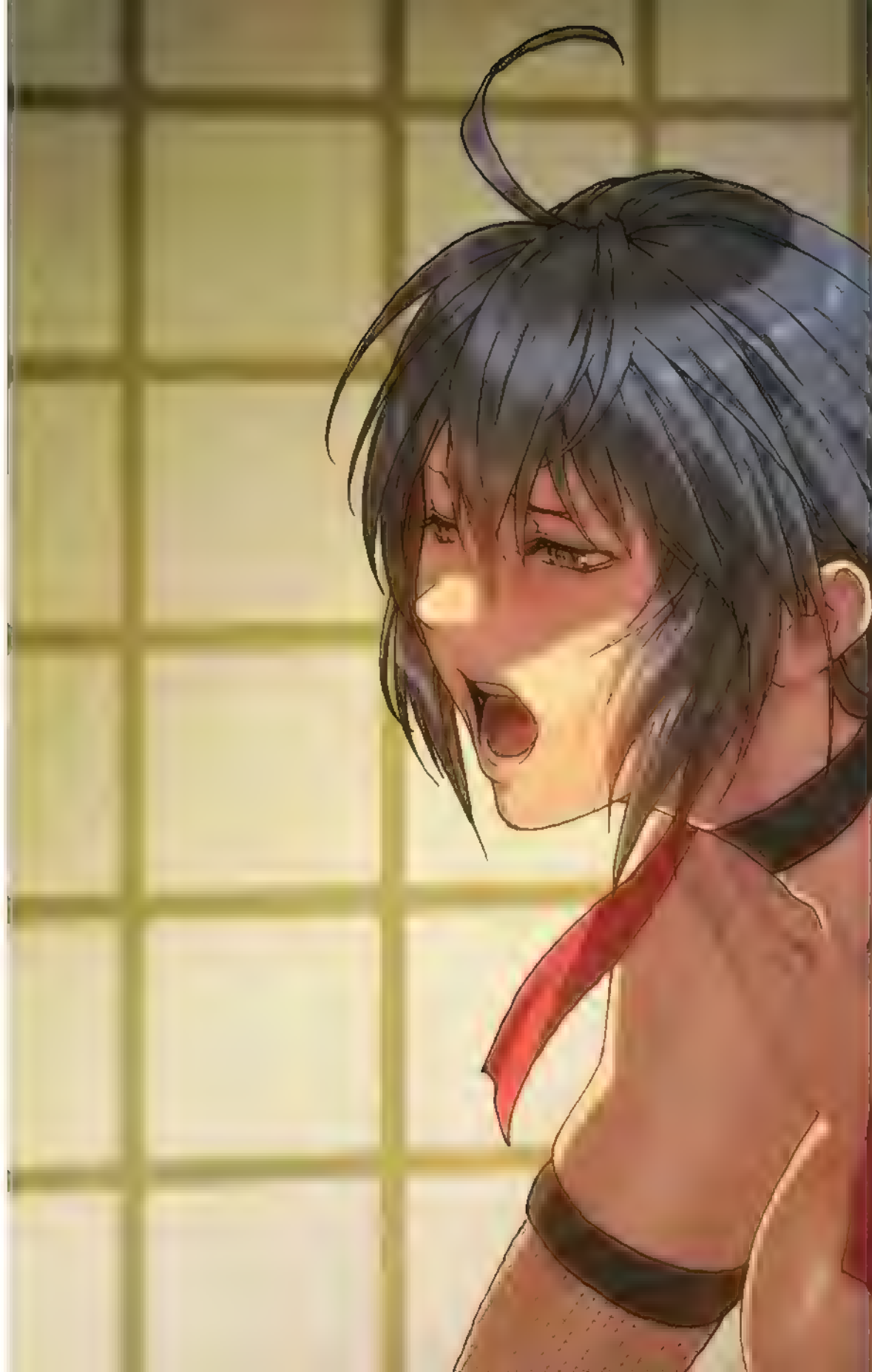


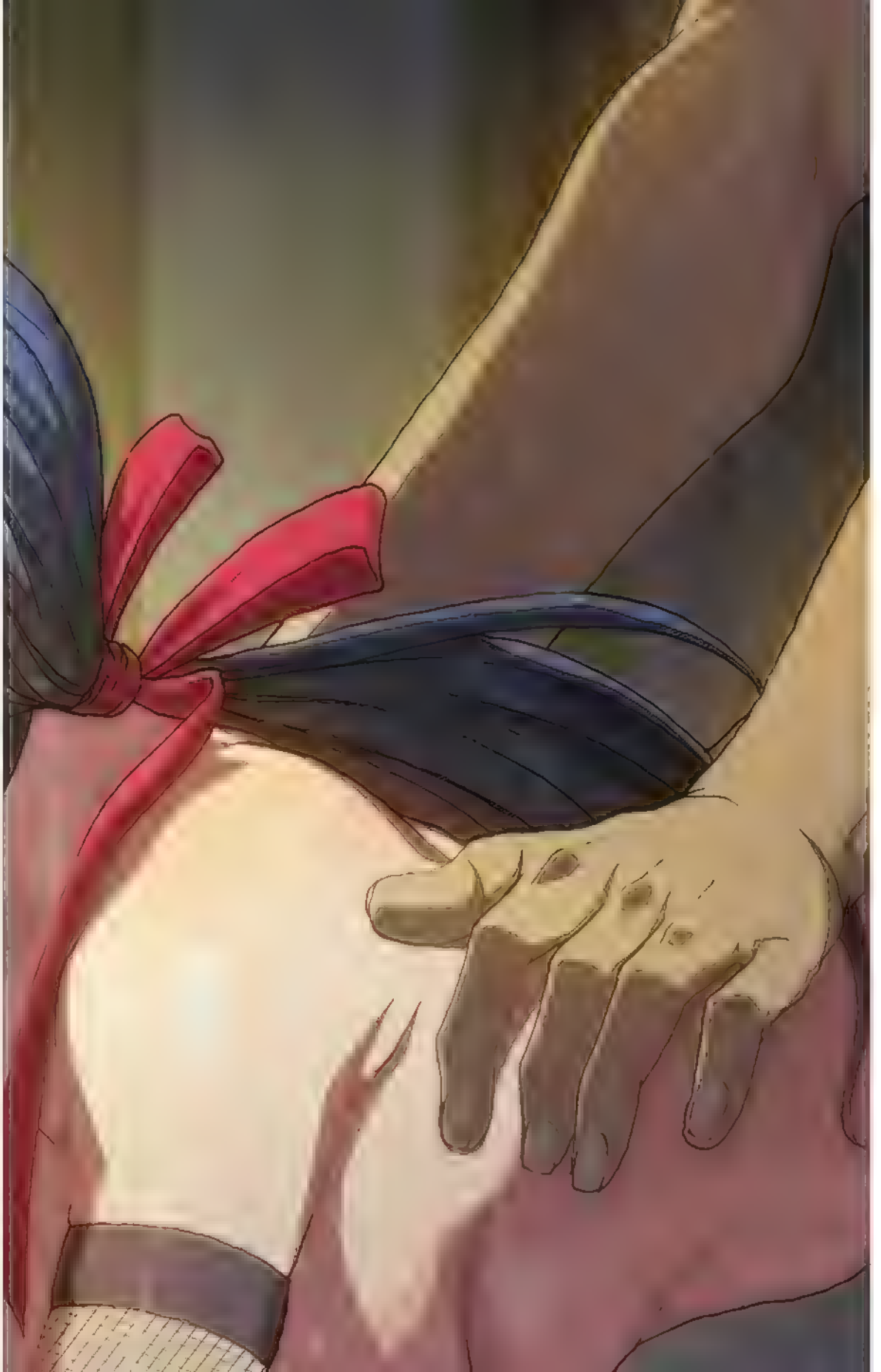


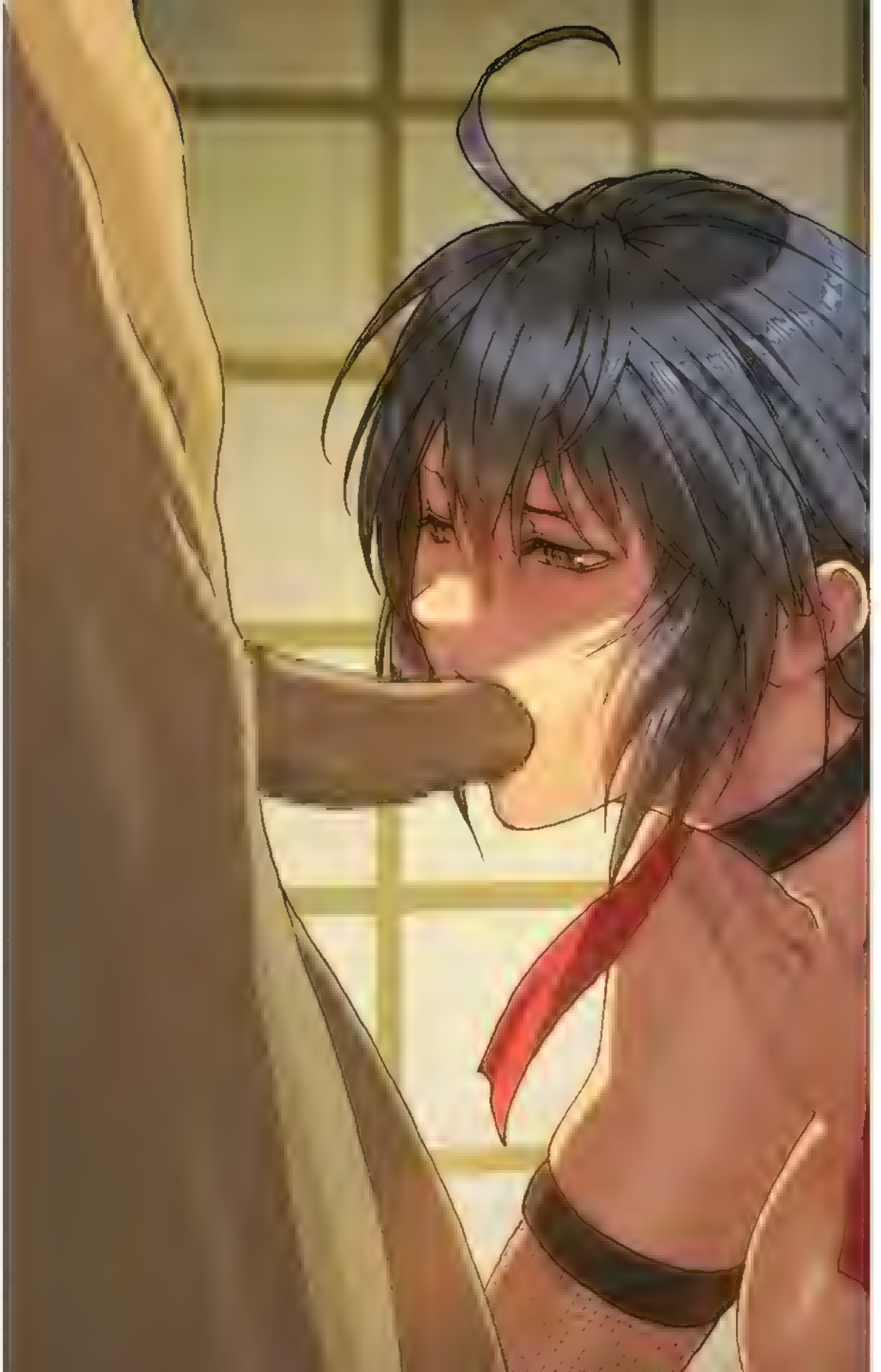




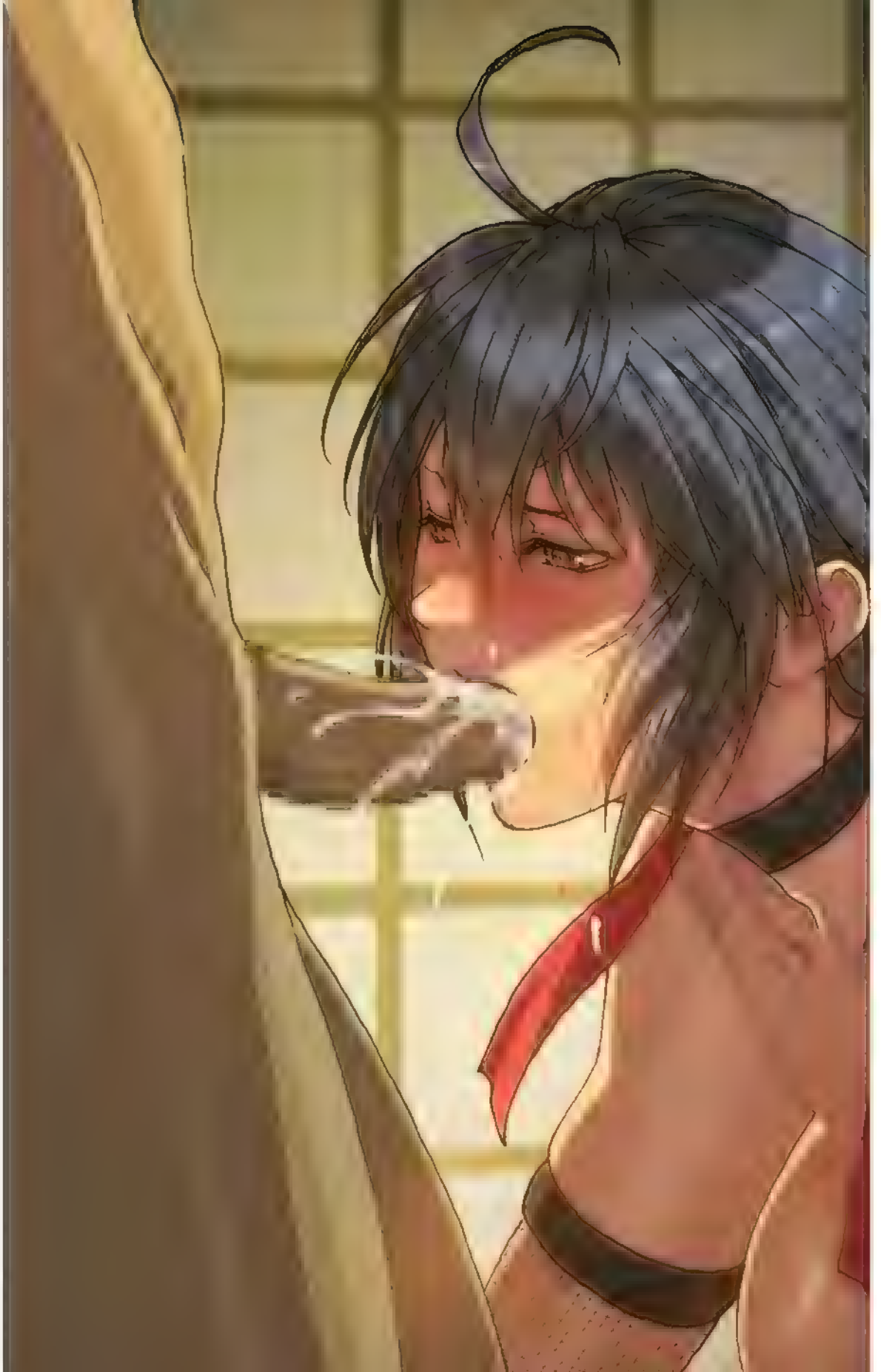


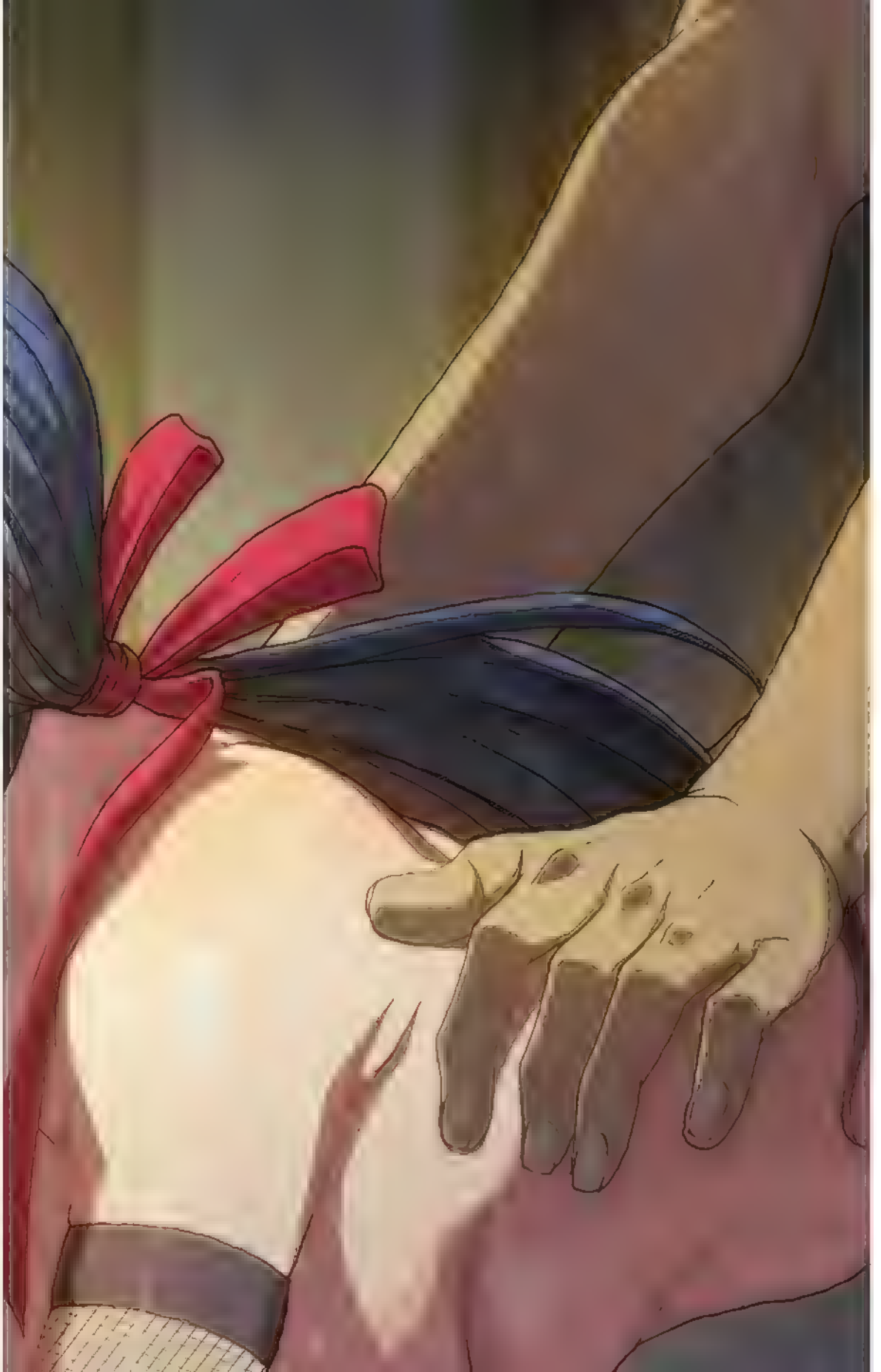


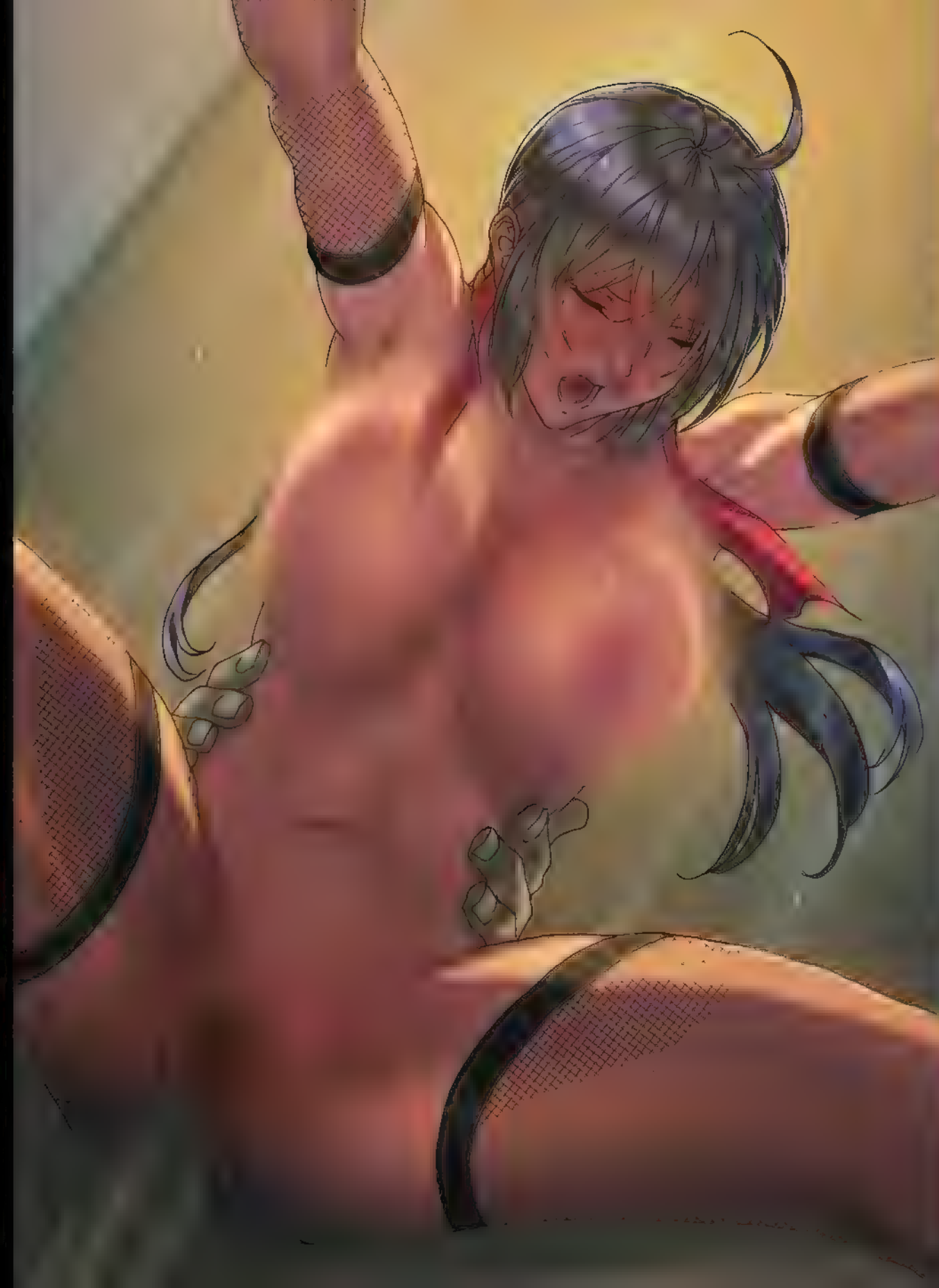


















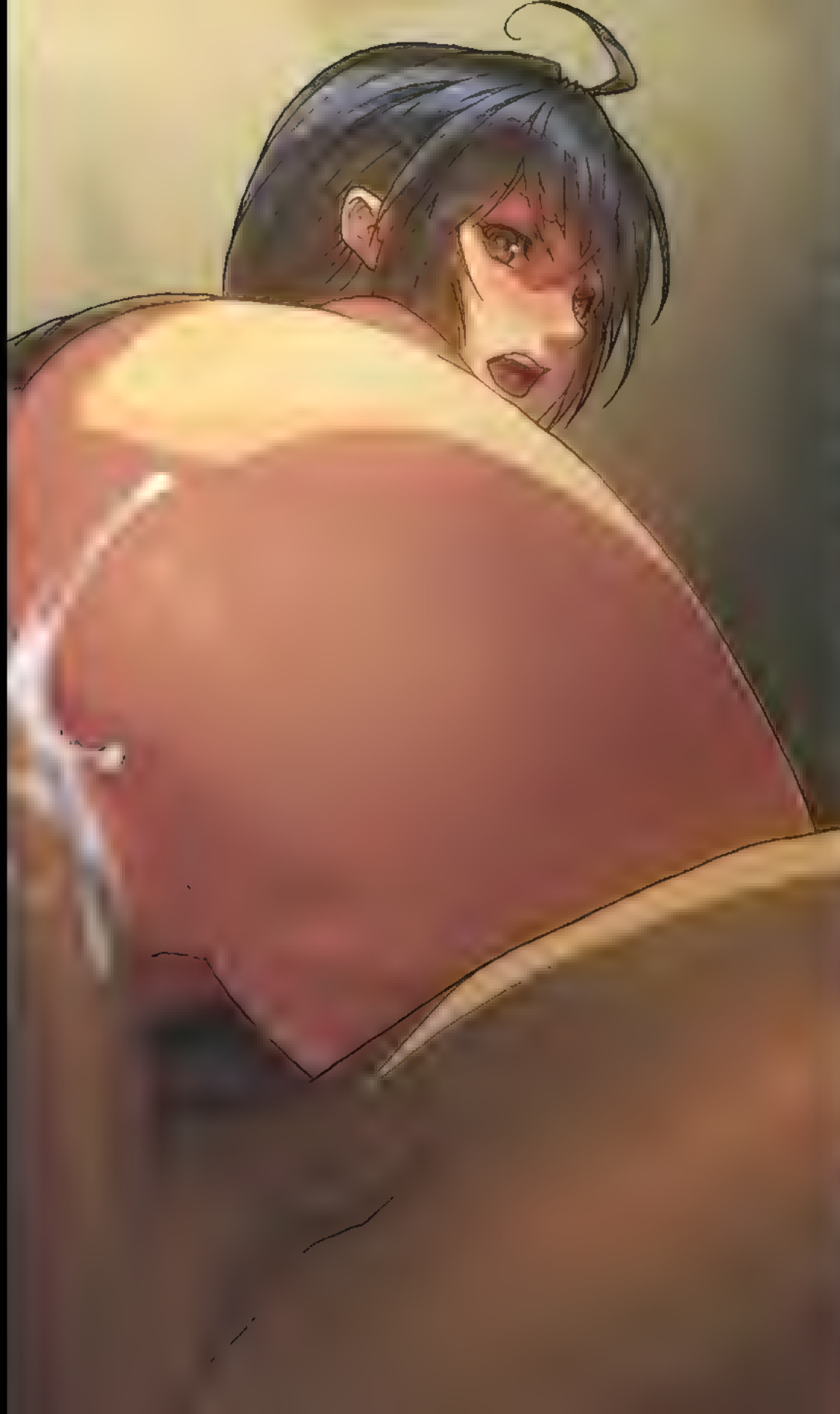


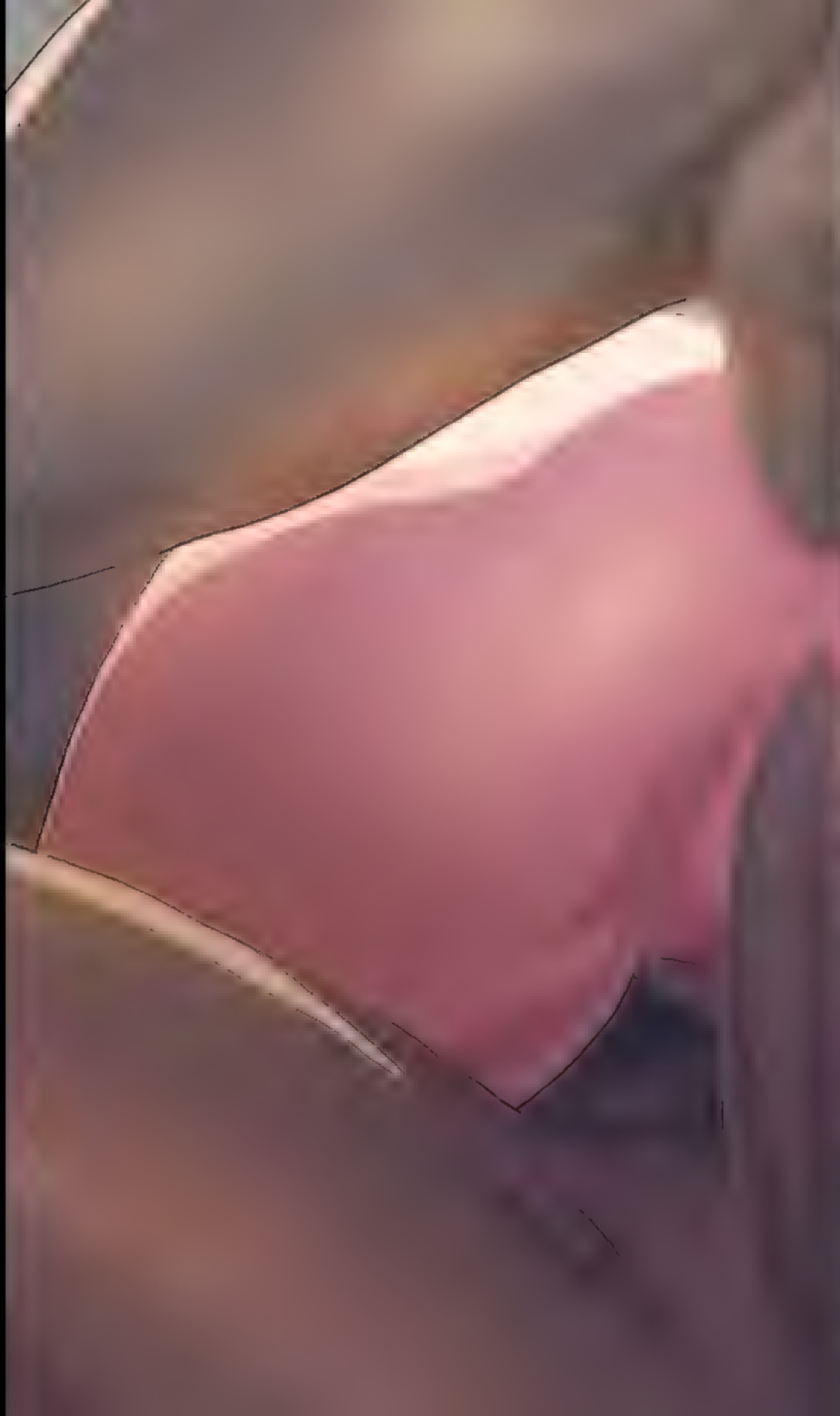








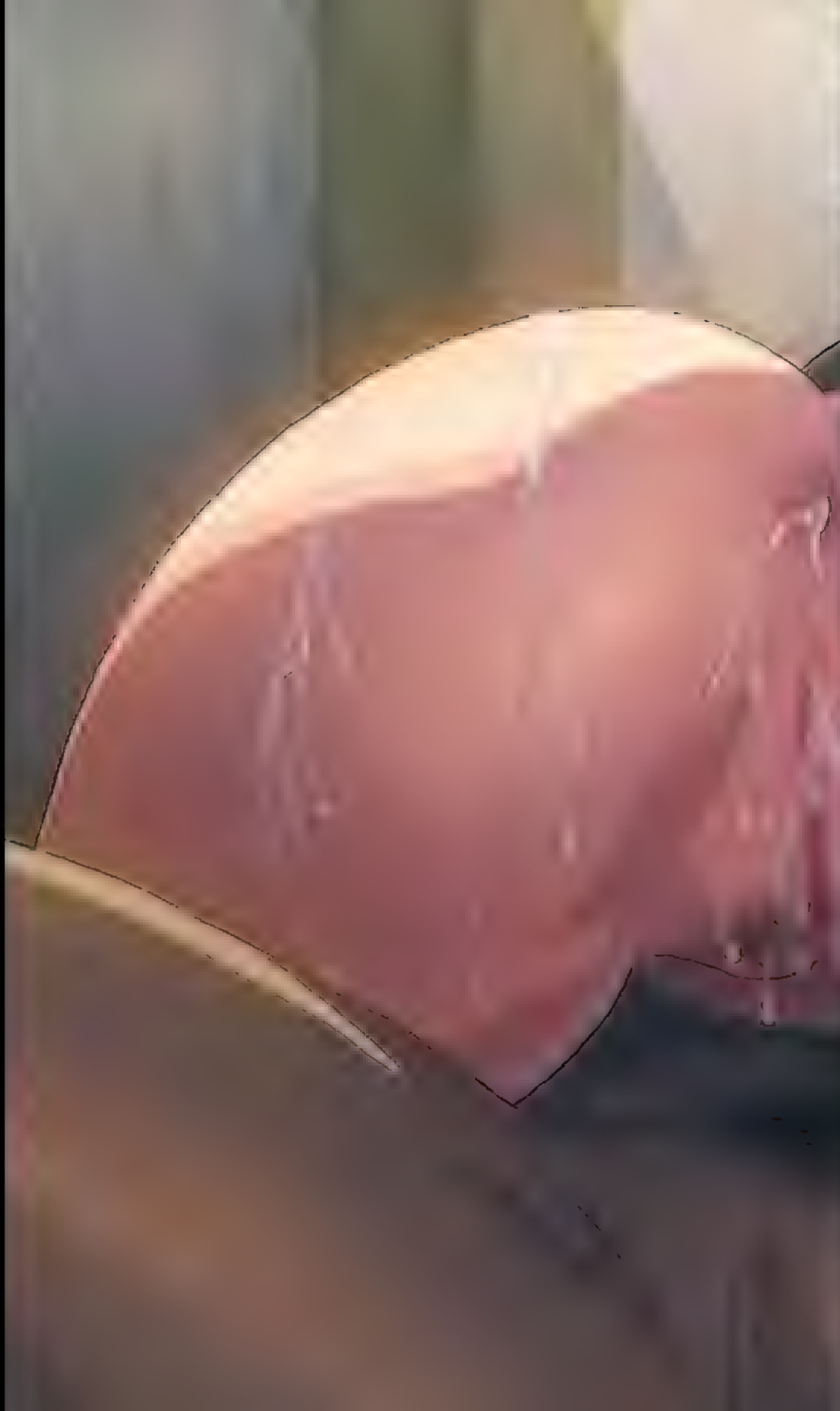


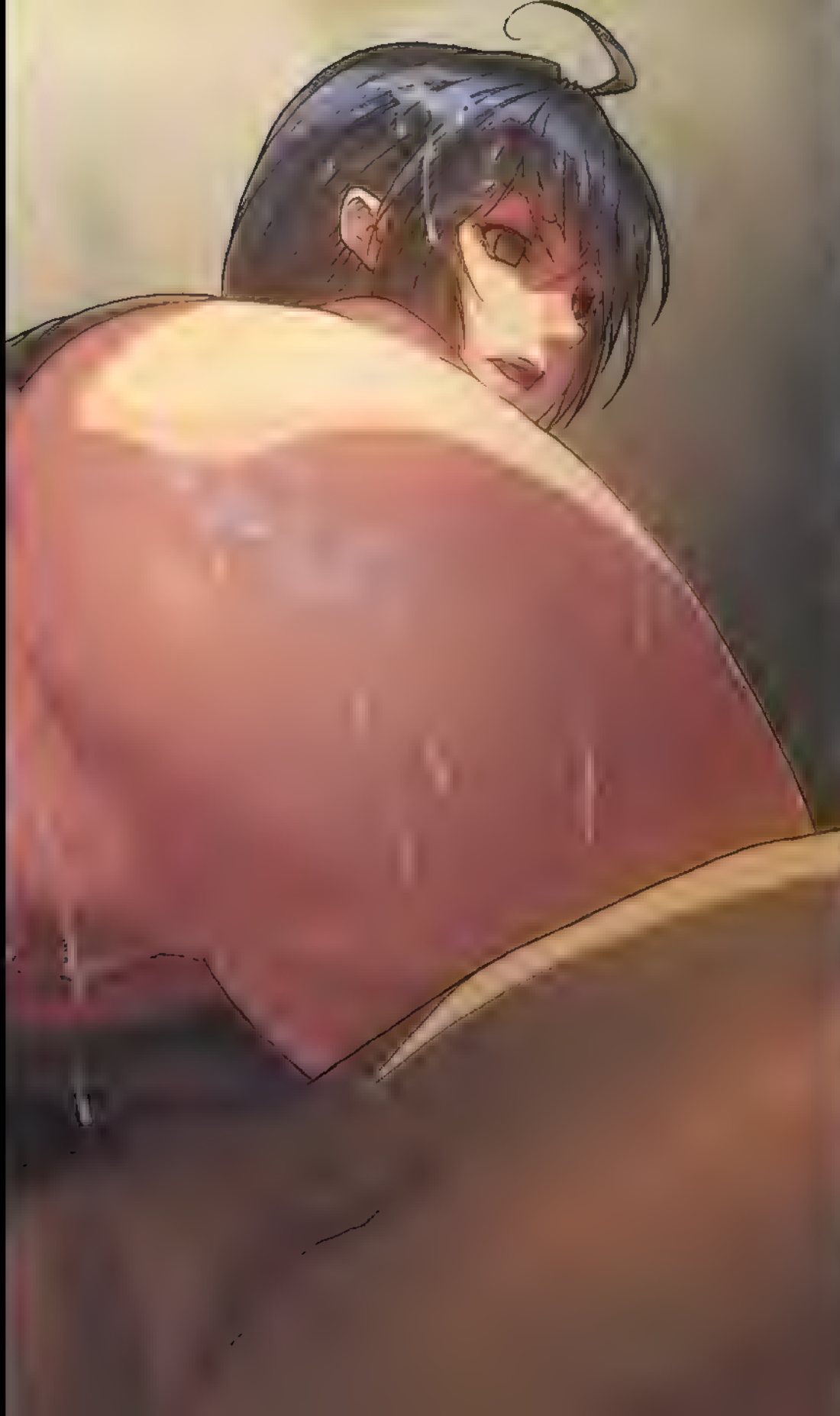


















卷之五

「姉様……」

「妹とは、え、花子と申すおかしな」

「何故裏切った？」

「裏切つてなど... 私はこれ以上あなた達の卑劣なおこないについていけないだけよ」

「たりの友が...」





時間ならたつぷりある。姉としてお前にはきつちり

お仕置きをしてやらねばない

「フス いつ見ても綺麗な肌をしておる……」

「あう、姉様何を……」



「あ、そ、う、跪きなさい」

「お前はまた、この体と根性を叩きなおしてやらんなあ」

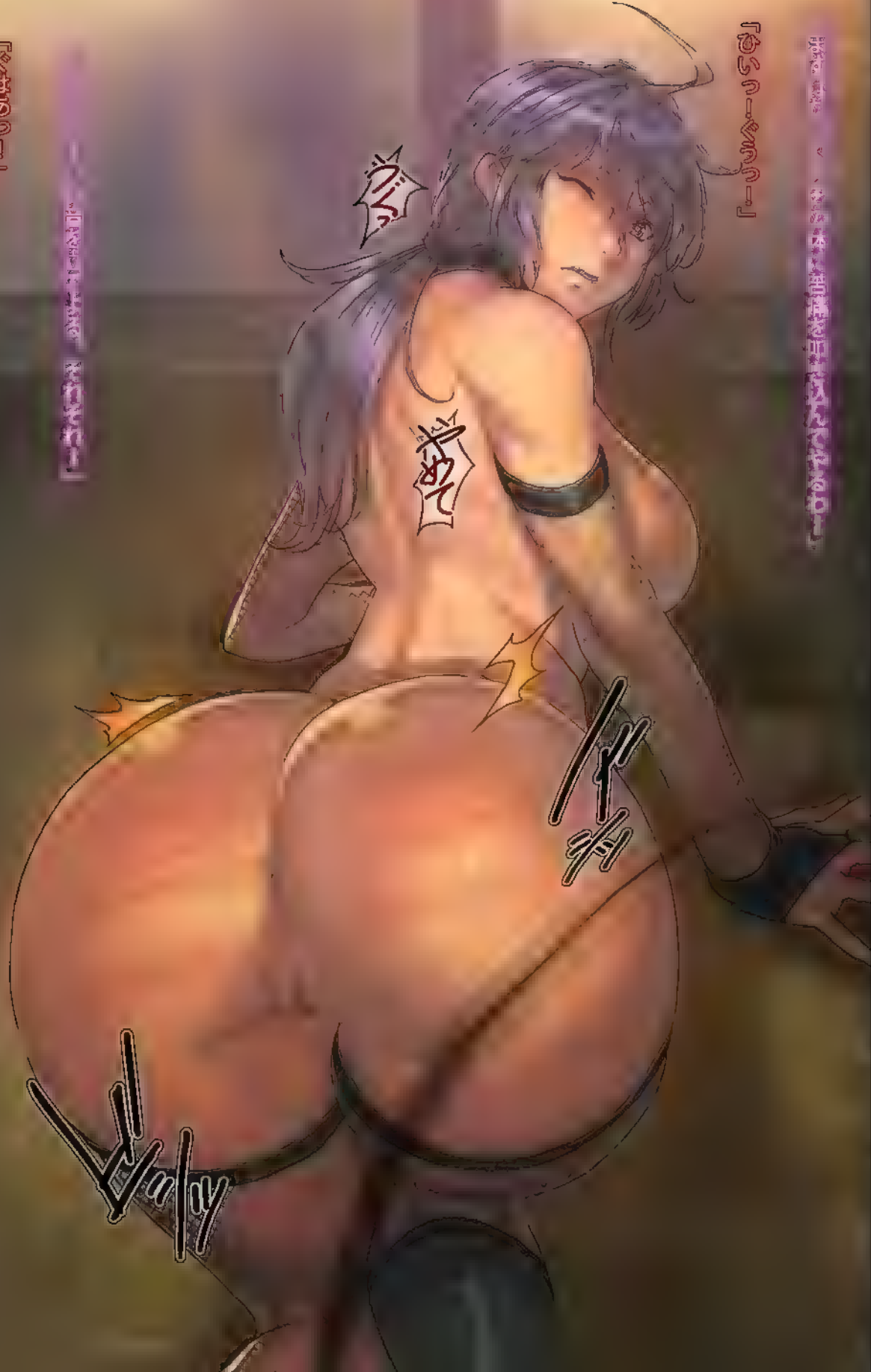
「肺病やめて……」



卷之四
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

卷之四
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

5
7 50



「赤くな」た尻をひくつかせてなんとだらしな
「そりゃ」で這「く」は「ている姿を見せられると妙な興奮してゐる
大しぶりに「イクで楽しんでませてもいいかのさ」

それは



ほら、
一氣にいくわよ

H

「さあ、腰をもっと上げて脚を開きなさい」

「いやっ！姉様、そんな大きいの入らない！」

痛いッ

イッ
X
ッ

01

グ
グ
。。。。

「あんっ、お、奥まであたってるう！もう・・・」

ヒッ
ッ
ッ

ん

ん

『ぐああああーっ!』

『ああ、心地よい悲鳴……。徹底的にしごいてあげる』

ア
ア
ッ

グ
ッ
ッ
ッ

あははははー

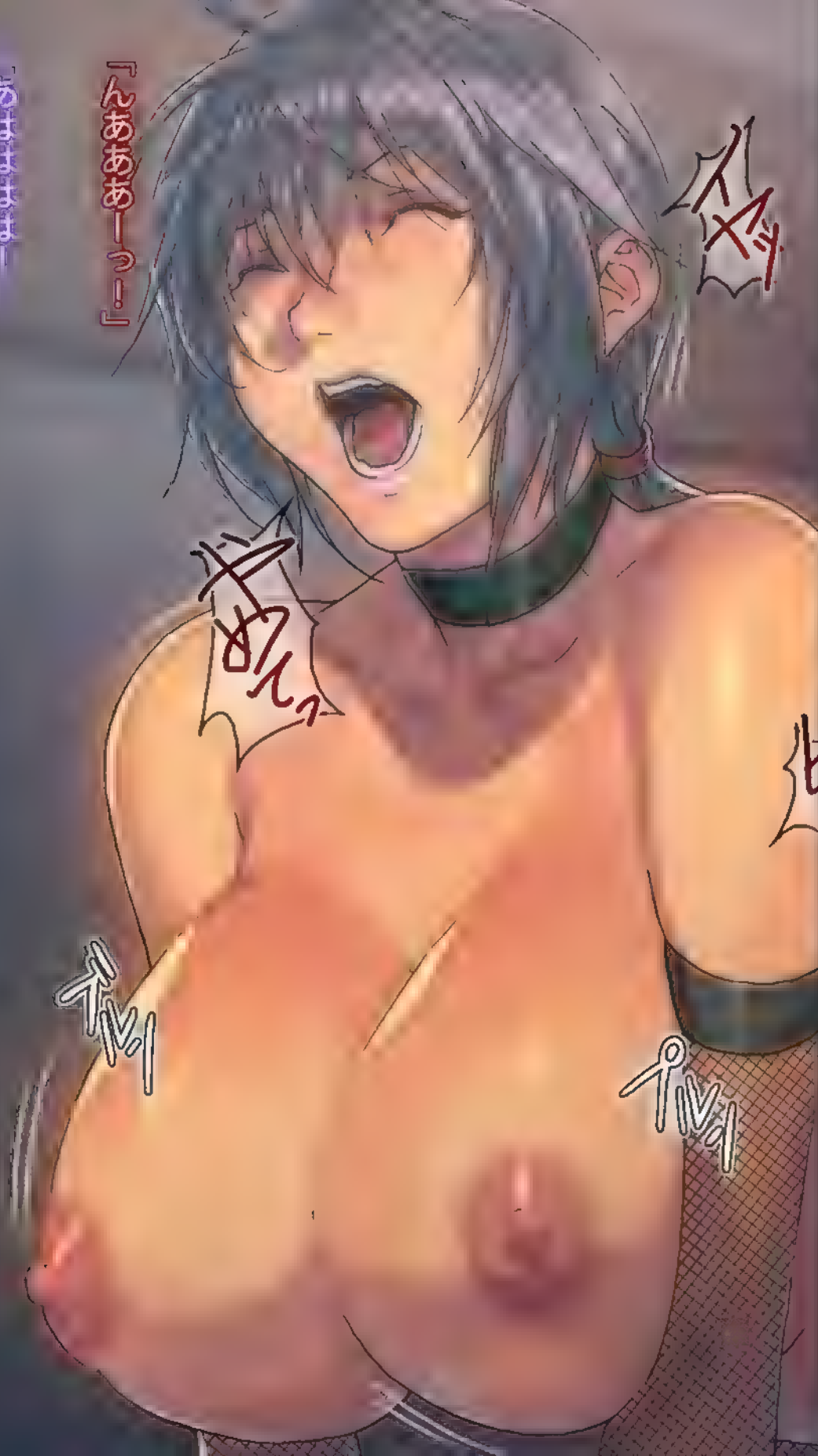
「んあああーっ!」

ズン

ズン

ズン

ズン



「本当、たらしけない妹だわあ。さあ、我慢せずイクがいいー」



「他愛の無い、後はお前達の好きにするが、わ」

「くす、ググぐ、」

「くす、ググぐ、」

「今度は俺達の相手をしろってことだよ」

「やだ、放して」



『殺されない代わりに俺達が』『度とお前がバカなことを考えんように叩きなおしてやるのさ!』

「ジョーお願いやめて」

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

ズン

『泣き言を言っても無駄だ。前からお前とは』『発やってみたいと思っただんだ』

「遠慮なくぶちこんでやるぜえ」

「へへ、エロい体つきしやがって口もなかなかうまいもんじゃねえか」
「これからもっと俺達と楽しもうぜ」



「あら、お口もお留守だろ。こつちもくわえろや」

「びびっ、んん……」

「サ」

「サ」

んっ



くっ

ドクッ

ググ

「何言っでやがる、黙って腰を振って楽しませろよ」

「ふっ、ふっ」

「ひひ、いいぞ もっとだ。シマリ具合もたまんねえ」

「さあ、次は上に乗りな」

「くっ、このような屈辱……」

3.5

ガキ

『おお、
すげえシメつけやがる』

『いや、
そんなに激しくされたら前と後ろでこすれあって

私もうおかしくなっちゃうー!』



「そんじゃ俺は後ろの穴をいただくぜ」

「ヤダッ、そんな所・・・、
裂けちゃうっ!」

「ほれ、尻の穴の力抜きな。
じゃねえと一生垂れ流しだぞ」

「ひぎっ・・・」



「いやあ！中には、お願いやめてええーっ！」

ん あ あ ツ ツ ツ ツ ツ ツ !!

「ハッ」

「おおお、イクぞ!」

もう
ダメ
ッ

ブリ
ュ
ッ
ッ



トローン...

ぽろ

ぽろ

「ハハハ、いい気味だな。これに懲りてもう我が下から抜け出そうとは思っまい
このままお前達の好きにするがいい」

「へっ、喜んで」

「後でまた私も楽しませてもらっつよ。お静」

「どうだ？お静の様子は」

「へっ、くらんの状態でございます」

あう

あお

ぷく

